

The Four Seasons

Antonio Vivaldi

Concerto in E major, "La Primavera" (Spring), Op. 8-1, RV 269
Concerto in G minor, "L'estate" (Summer), Op. 8-2, RV 315
Concerto in F major, "L'autunno" (Autumn), Op. 8-3, RV 293
Concerto in F minor, "L'inverno" (Winter), Op. 8-4, RV 297

The Quartet Four Seasons:

Shiori Takeda (1st Violin)
Kumiko Kasugai (2nd Violin)
Kazuhide Iino (Viola)
Masateru Nishikata (Cello)



Yoichi Tsuchiya
Arranged for Four Soloist and String Quartet



The Four Seasons

Antonio Vivaldi
(Arranged for Four Soloist and String Quartet)



Concerto in E major,
"La Primavera" (Spring), Op. 8-1, RV 269

- | | |
|--------------------------------|--------|
| I. Allegro | 3' 27" |
| II. Largo | 2' 29" |
| III. Allegro (Danza pastorale) | 4' 25" |



Concerto in G minor,
"L'estate" (Summer), Op. 8-2, RV 315

- | | |
|---|--------|
| I. Allegro non molto-Allegro | 5' 31" |
| II. Adagio-Presto-Adagio | 2' 14" |
| III. Presto (Tempo impetuoso d' estate) | 2' 45" |



Concerto in F major,
"L'autunno" (Autumn), Op. 8-3, RV 293

- | | |
|--|--------|
| I. Allegro (Ballo, e canto de' villanelli) | 5' 13" |
| II. Adagio molto (Ubriachi, dormienti) | 2' 14" |
| III. Allegro (La caccia) | 3' 27" |



Concerto in F minor,
"L'inverno" (Winter), Op. 8-4, RV 297

- | | |
|----------------------|--------|
| I. Allegro non molto | 3' 22" |
| II. Largo | 1' 54" |
| III. Allegro | 3' 35" |



これほど野心的な「四季」は聴いたことがない——長谷川 教通



もともとは弦楽合奏と通奏低音に独奏ヴァイオリンが加わるヴィヴァルディの「四季」。これを弦楽四重奏で演奏したらどうだろうか。各声部の旋律線が鮮やかに浮かび上がって、掛け合いのスリリングな面白さと演奏者の自発性が絡み合って、新しい「四季」が聴けるかもしれない。ソロパートもひと工夫したいね。4人の演奏者が「春」「夏」「秋」「冬」を交代で弾くのはどうだろうか。いやいや、言うのは簡単でもヴァイオリンのソロをチェロで弾くのはたいへんだよ！

こうして野心的な「四季」がスタートした。編曲は作曲家の土屋洋一さん。この編曲がいい。オリジナルの雰囲気を生かしながら、ヴィオラやチェロのソロがまるでヴィヴァルディが意図していたかのように自然で生き生きと音を紡いでいく。しかも、弦楽四重奏とは思えないほどに厚みのある響きを奏でるのだ。さらにプロモーションビデオの制作も同時に行われ、これが4K収録だということだから驚いてしまう。何とアグレッシブなプロダクションだろうか。

いまから約300年前のヴェネチア。赤毛の司祭さまと呼ばれ、ピエタ慈善院付属音楽学校で身寄りのない女性たちにヴァイオリンを教えたヴィヴァルディ。そこで行われる演奏会のためにたくさんの曲を書いている。彼女たちに合わせて楽器編成を変え、編曲もしていただろう。バロック時代の音楽にはもっと自由なアプローチや遊び心があったいいのだ。

今回結成された「The Quartet Four Seasons」のメンバーは全員が20歳代という新進気鋭の演奏家たち。「春」では第2ヴァイオリンを担当する春日井久美子さんがソロをとる。爽やかでキラキラと輝く木々の緑や賑やかな小鳥たちの声……奔放さとしなやかさを合わせ持った瑞々しい音色が素敵だ。「夏」のソロはチェロの西方正輝さん。照りつける夏の日差しのもと、気怠い午後の空気をチェロの音色が巧みに表現する。ヴァイオリンに比べれば指板を走る左手の移動距離は段違いなのに、激しい稲妻をイメージさせるハイポジションも正確な音程で弾ききってしまう。「秋」は飯野和英さんのヴィオラが大活躍。活気があって弾むようなヴィオラが収穫の喜びを歌い上げる。秋祭りの賑わいや獲物を追う狩人たちの喚声が聞こえてくる。やがて「冬」。第1楽章の冒頭は寒さに震えながら道行く人の重い足取りだろうか。そこへリーダーの竹田詩織さんの冴え冴えとしたヴァイオリンが寒風のように吹き抜ける。このキリッと引き締まった艶やかで透明な音色は美しい。ソロと合奏が絡み合いながら冬の大地を疾走するかのようなクライマックスへ……。

この「四季」は嬉しい。録音は2014年2月20日～22日、軽井沢・大賀ホールで行われた。プロダクションのリーダーはサラウンド録音の第一人者、Mic Sawaguchi こと沢口真生氏。クラシック音楽の録音に造詣の深い長江和哉氏も加わって万全の態勢。マイクはコンデンサー、リボン、デジタルの3種類が用意され、モニター室まではMADI接続としてステージ上の音を徹底的にロスなく伝送している。

4人の奏者はステージ上で円周上に並び、互いの呼吸を感じとりながら演奏する。そんな彼らの息づかいが192kHz/24bitで生き生きと収録されている。サラウンド用のマイクは天上を狙い、上方から降り注ぐ豊かな響きをとらえる。ソロパートはオーバーダブで収録された。

2chミキシングは、各楽器の定位感と弦楽四重奏をコアにして形成される音場空間の密度感がすばらしい。しかし、沢口氏のサラウンドデザインの真価は、やはり5.0chでこそ発揮されるだろう。ソロがセンターのやや前に位置し、背後に弦楽四重奏。その前後感や3次元的な空間の表現。これは2chでは得られない。それぞれの楽器が空気を震わせる、そのスリリングなまでの鮮やかな感触。ググッと聴き手に迫ってくる圧倒的な存在感。これほど野心的で刺激的な「四季」が、これまであっただろうか。まさにオンリーワンの存在と言えるだろう。

Profile: The Quartet Four Seasons

竹田 詩織 Shiori Takeda

1988年生まれ。2010年東京藝術大学音楽学部器楽科ヴァイオリン専攻卒業。京都芸術祭「世界に翔く若き音楽家の集い」京都市長賞受賞、全日本学生音楽コンクール、日本クラシック音楽コンクール、横浜国際音楽コンクール、ルーマニア国際音楽コンクール等数々のコンクールに上位入賞、入選を果たす。

大学在学時より、ソロ・オーケストラ・室内楽での活動の他、多数の著名アーティスト楽曲レコーディングやライブサポート等様々なフィールドで活動。自身がリーダーを務めるストリングスでの活動も多数。様々な音楽活動を経て、2012年より東京交響楽団ヴァイオリン奏者としてのキャリアをスタート。現在プロオーケストラ奏者としての顔の他に、その経験を生かした多彩な音楽活動を展開している。



春日井 久美子 Kumiko Kasugai

1987年生まれ。2009年東京藝術大学音楽学部器楽科卒業後、スイスのカヤレイ・ヴァイオリン・アカデミーにてハビブ・カヤレイ氏の元で4年間研鑽をつみ、ディプロマを取得。改めて活動の場を日本に移す。大学在籍中よりソリスト、室内楽奏者、また様々なオーケストラやレコーディングに携わるなど、多岐にわたって精力的に活動している。春日井恵とともに定期的にデュオのコンサートを開催し、好評を博している。



飯野 和英 Kazuhide Iino

5歳よりヴァイオリンを始め、印田礼二、吉川朝子両氏に師事。18歳より東京音楽大学に入学。入学時にヴィオラに転向。兎東俊之、大野かおる両氏に師事。東京音楽大学在学中、東京音大シンフォニーオーケストラにて海外演奏旅行に参加。卒業後、東京芸術大学大学院音楽研究科ヴィオラ専攻修士課程に入学。川崎和憲氏に師事。芸大奏楽堂において、第38回及び第40回室内楽定期に出演。2014年3月に卒業。サントリーホール室内楽アカデミー第二期フェロー。

パブロカザルス国際セミナー等に参加。第8回ブルクハルト国際コンクール弦楽器部門審査員賞。第3回蓼科音楽コンクール弦楽器部門第3位。第12回日本演奏家コンクール弦楽器部門第2位(1位無し)。第11回大阪国際音楽コンクール age-U 入選。



西方正輝 Masateru Nishikata

1989年千葉県出身。10歳よりチェロを始める。チェロを鈴木典子、伊藤耕司、河野文昭、西谷牧人の各師に師事。第9回ビバホールチェロコンクール第一位をはじめ、多数のコンクール、オーディションで上位入賞。オーケストラとも多数共演、リサイタル、室内楽、TVドラマの音楽やメジャーアーティストのサポート等幅広く活動している。

東京芸術大学卒業、在学中に同声会賞受賞。同大学院修士課程修了。チェロアンサンブル XTC メンバー。



& Arranger

土屋 洋一 Yoichi Tuchiya

東京、渋谷に生まれる。20歳よりピアノを、その後作曲を始める。2011年東京芸術大学作曲科を卒業。作曲を故北村昭、近藤譲、山本裕之、照屋正樹、山本純ノ介らに師事。サウンドデザインを沢口真生、録音を亀川徹、DAW とエンジニアリングを江夏正晃に学ぶ。

130th AES Convention London Recording Competition Modern Multi-track Studio Recording 部門 JAPAN student section より“Prelude5.1” (5.1ch) がエントリー。

“Cori Spezzati Nova” (5.1ch) が 131st AES Convention New York の Recording Critiques にてイーグルス、エアロスミス、スティーリー・ダンなど多くの著名アーティストのミキシングや音楽プロデューサーとしても知られる Elliot Scheiner より称賛を受け、数々のグラミー賞ノミネートアルバムを世に送り出している2LレーベルのMorten Lindbergから「聴いたことの無い音楽を聴いた」と評される。

翌年5.1ch 楽曲制作コンテストに入賞(DTM MAGAZINE 2012年6月)。2014年2月自身のサラウンド作曲集「The Universe for Surround UNAHQ 2004」をUNAMASレーベルよりリリース。





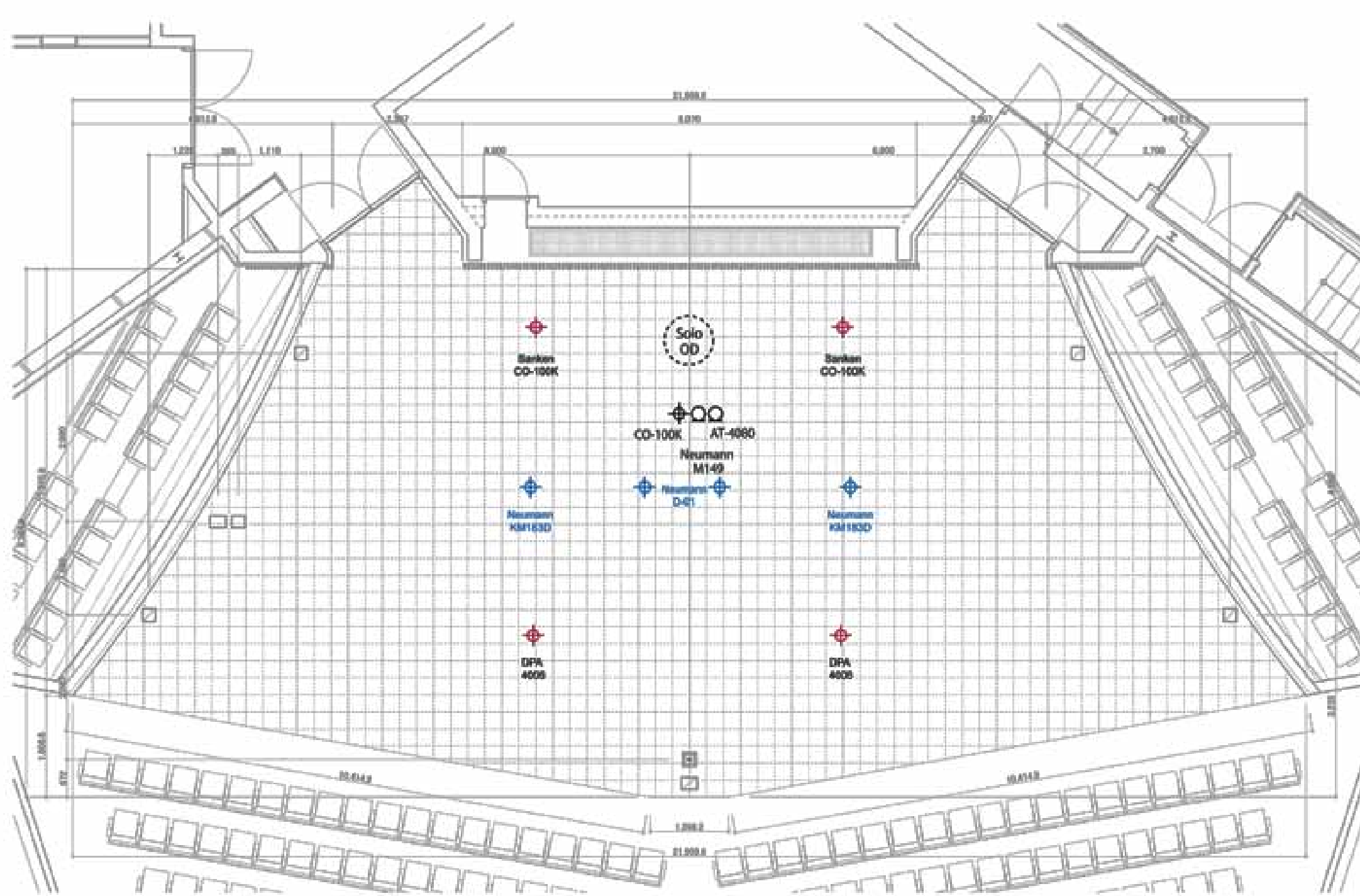
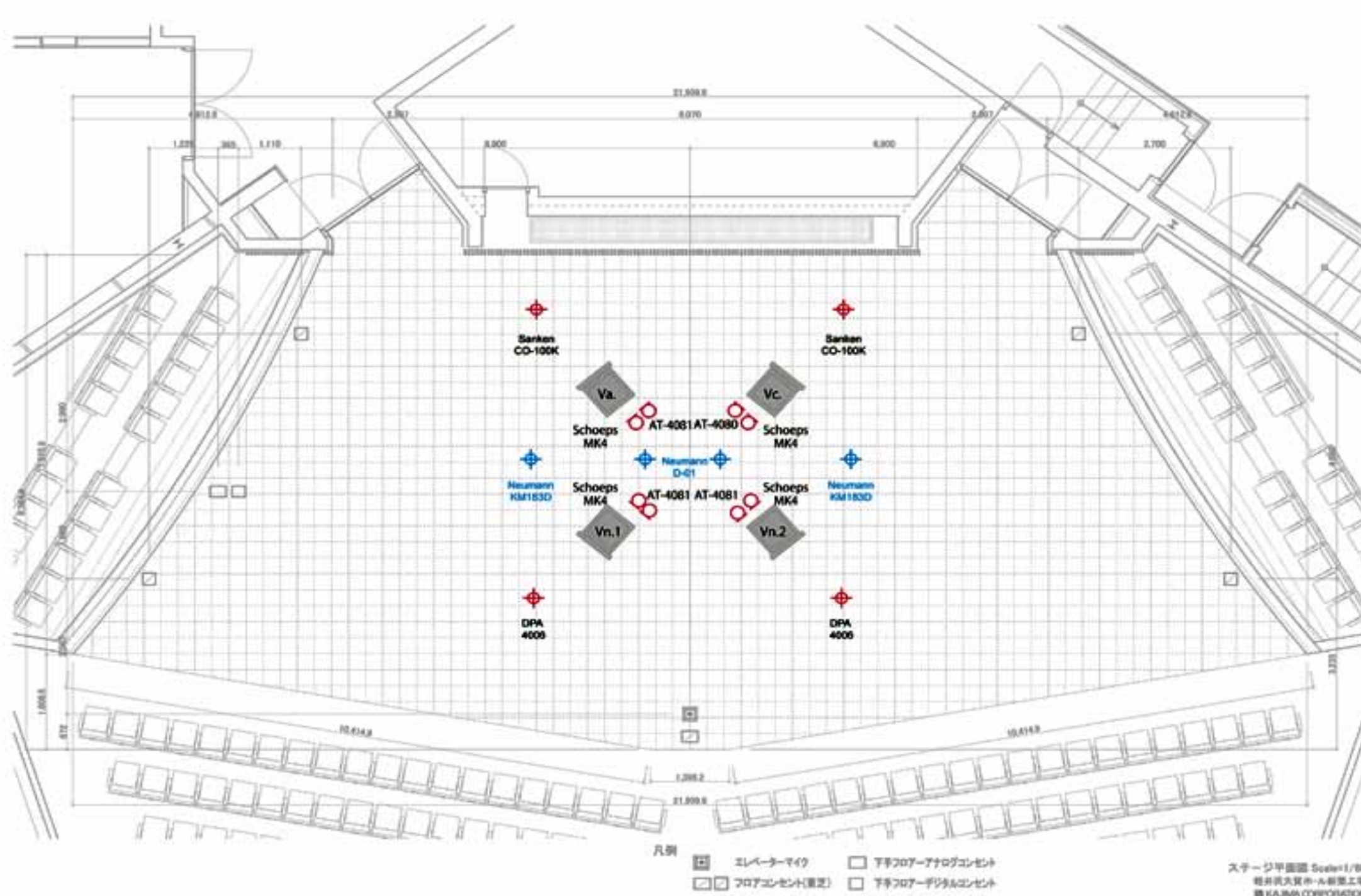
Mick Sawaguchi
Mick Sound Lab Inc. C.E.O

アルバムコンセプト

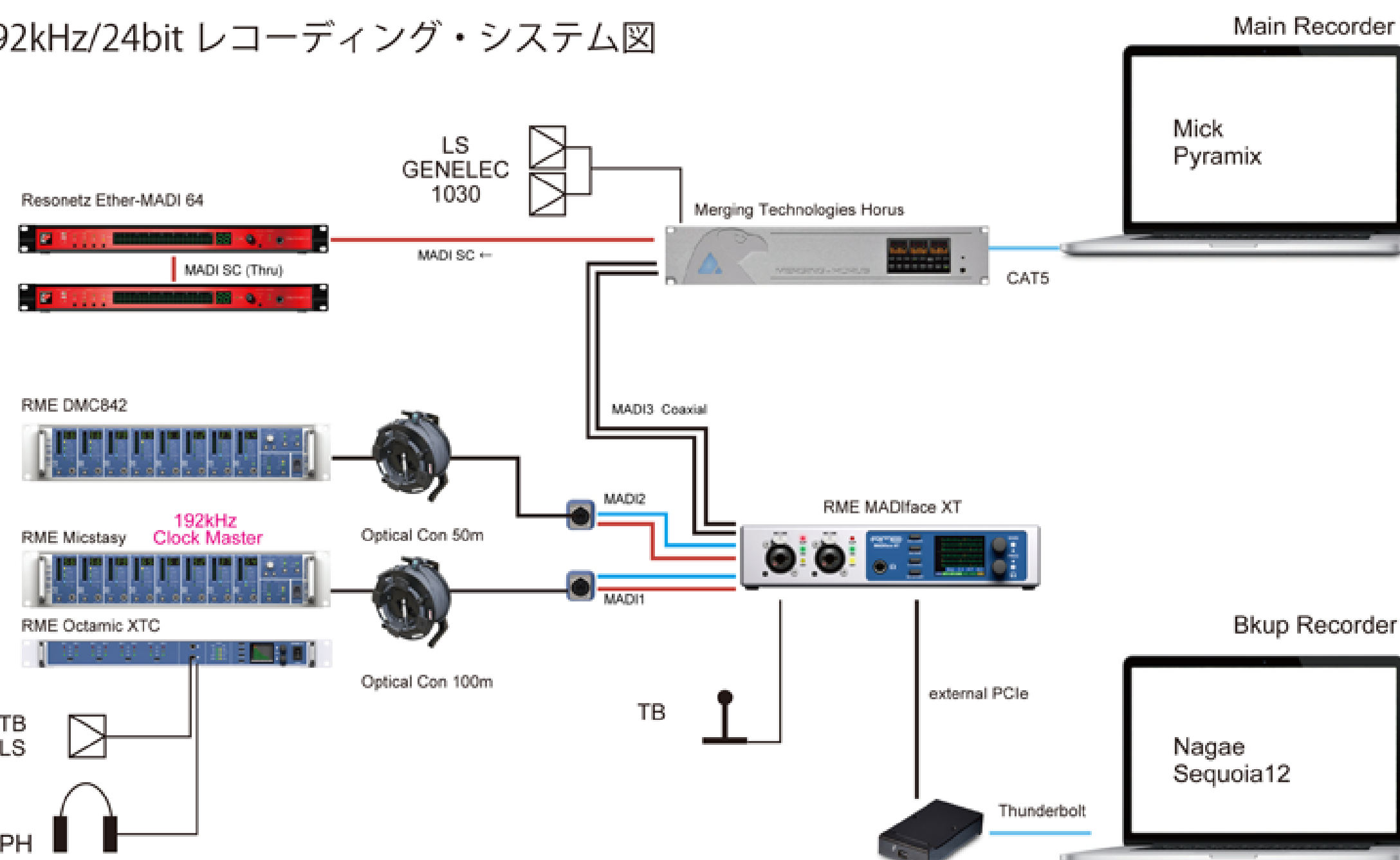
- 弦楽4という各自のスキルを必要とするメンバーだけで、アンサンブルパートとソロパートに分けオーバーダブによる録音を行う。
- ソロパートは、弦楽4の4人がそれぞれ春/夏/秋/冬の各楽章を担当する。
(今回は春のソロを V12、夏を Vc、秋を Vla、冬を V11 で担当) このためにリーダー役の竹田詩織さんに本作向けのベストメンバーを選定していただきその名前も「The Quartet Four Seasons」というチームを編成していただきました。
- 録音は小編成の空間と響きを十分捉えられるホールを選定し、弦楽4を流麗でこじんまりした音場ではなく定位も明確だが、空間表現もたっぷり含んでいる音場として表現する。
(結果 軽井沢 大賀ホールを選定)
- ホール録音でも演奏内容とともに品質も重視した最新技術で録音する。
このためステージ設置マイクプリからモニター室までを MADI—光接続とし、DAWは、IP 技術を採用した DAWで、そしてマイキングでは通常のコンデンサーマイクにリボンマイク、さらにデジタルマイクという3種類を選定し、マイキングを検討しました。
空間を捉えるマイクは、大賀ホールのシーリングに向かって Hight-Channel で構成しています。

録音ステージングと MIXING

カルテットのメンバーは、ステージに円周上に配置して演奏しています。
これは、サラウンド MIX と 2CH ステレオ MIX を妥協せずに両立するための配置です。
円周配置のメリットは、近接した4名が、お互いの目線や呼吸を均等に感じて演奏できる点です。2CH MIX だけでもないし、コンサートでもないのだから、客席に向かって横一列配置に限定する必要はありません。もうひとつのメリットは、均等に近接しているため4本のスポットマイクに相互のかぶりがきれいに飛び交います。この結果360度のサラウンド音場にスポットマイクを定位させても大変スムーズなエンベロープを持った空間が出来上がります。無理に MIX でリバーブを付加してエンベロープを作らなくても演奏の場で自然に出来上がっている訳です。
もうひとつのメリットは、2CH ステレオとの両立性です。円周配置ですのでこれを 2CH MIX で自由に定位をつけたいとした場合でも無理がありません。どのマイクも均等な情報を取り込んでいるからです。



192kHz/24bit レコーディング・システム図



At Karuizawa Ohga Hall



UNAHQ 2005

Rec. Data: 2014.2.20-22 at Ohga Hall Karuizawa Nagano Japan
Producer: Mick Sawaguchi (Mick Sound Lab Inc.)
Rec/Mix/Mastering: Mick Sawaguchi (Mick Sound Lab Inc.)
Assistant Engineer/Digital Edit: Kazuya Nagae
MADIRec RME: Micstacy DMC842 OctmicXTC/MADI face XT: Synthax Japan
DAW Pyramix8.1 HORUS: DSP JAPAN Squoia12 :Kazuya Nagae
PS and Cable: AcousticRivive
4KPV Production: Marimo Records



Produced by
沢口音楽工房 Mick Sawaguchi

〒180-0012 東京都武蔵野市緑町 1-2-13 TEL:0422-53-8021 (office) / 0422-36-6252 (Unamas)
URL: <http://unamas.jp/> , <http://unamas-label.net/> , E-mail: mick-sawa@m.jcnnet.jp

Linernotes: Norimichi Hasegawa, Photo: Seiji Murai (Synthax Japan) / Four Seasons Project, Design: Ivy planning Inc.

個人的に使用する場合を除き、著作権法上著作者の許可無くCDやその他記録メディアへのコピー、
ネットワーク配信サイトやネットラジオ局等への配布は法律により禁じられています。

